



西村証券

チーフストラテジスト  
門司総一郎の

# ウィークリーレポート

2022年  
2月25日  
発行

第124回

「ウクライナ問題は早期解決へ」

## ～始まったプーチン帝国の崩壊～

### 初めに

前回に引き続き、ウクライナ問題を取り上げます。ロシアが国境を越えてウクライナに侵攻していますが、当レポートは引き続きこの問題は早期に決着すると見ています。今回はそう考える理由をお話しします。

### ウクライナ侵攻の理由

このタイミングでのウクライナ侵攻について、一般的にはNATOの東方拡大を嫌ったものと言われていました。自分もその見方は正しいと思いますが、もう一つ理由があると見ています。それは、新型コロナやインフレなどに対する不満から、国民の目を逸らすことです。

### 甚大な新型コロナの被害

2021年12月30日のロイターの発表によれば、2021年11月時点でロシアの新型コロナ累計死者数は65万人に達し、ブラジルを上回って米国に次いで世界第2位になったとのことです。

### インフレの昂進

インフレも高まっています。2021年2月9日ロシア連邦統計局は、1月の消費者物価指数が前年同月比8.7%の上昇と発表しました。伸びは昨年12月から0.3ポイント加速し、過去6年で最高です。現在ロシア国民の生活はかなり苦しいものと思われます。プーチン大統領がウクライナ侵攻を急いだのは、こうした不満から国民の目を逸らす事も理由と見ています。

### 侵攻は逆効果に

しかしプーチン氏の思惑は逆効果となりそうです。プーチン氏の故郷であるサンクトペテルブルクを含むロシア各地で、ウクライナ侵攻に反対するデモが発生しています。国民はウクライナ侵攻を支持していないようです。G7諸国などによる経済制裁もロシア経済に大きな打撃を与えられると思われます。当初慎重だった韓国も参加する模様です。国際的にも厳しい状況に立たされる恐れがあります。ウクライナは陸路で欧州とアジアを繋ぐ要地です。中国はロシアのウクライナ侵攻をよく思っていないでしょう。こうした状況を考えると、このままウクライナ侵攻を続ける事は極めて困難だと思われます。これが早期に解決すると見る理由です。

### 勝者はバイデン氏

もし当レポートの想定のように、侵攻が短期に終了しウクライナの領土が保全されれば、一番の勝者はバイデン米大統領と言えます。これまで政策が思うように実行できず、中間選挙でも苦戦が予想されていますが、そのような展開になればバイデン氏に対する評価は大きく変わると思います。当レポートは大統領選の時からバイデン氏を支持していましたが、今後更なる活躍を期待しています。



チーフストラテジスト  
門司さんにきいてみよう!



西村証券株式会社 NISHIMURA SECURITIES Co., Ltd.  
京都市下京区四条通高倉西入立売西町65番地(本社)  
TEL:075-221-9390(本店営業部)

金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第26号  
加入協会:日本証券業協会 主な事業:金融商品取引業  
指定紛争解決機関:特定非営利活動法人 証券・金融商品あつせん相談センター

本書面は特定の金融商品の勧誘を目的として作成したのではなく、あくまで情報提供を目的とした書類です。書面上の株式市場見通し等は、本書面作成時の当社予想ですが、その後の市場動向・結果・影響等について当社が保証または責任を負うものではありません。また内容については予告なしに変更される場合もあります。本書面の著作権は当社に帰属します。当社の文章による承諾なしに、第三者への配布・コピー等はご遠慮ください。